



有限会社 百花
代表取締役

佐野 太一

山梨県出身。学業を終えると、アパレル会社に就職し販売員の仕事に携わる。30歳を機に包装資材を取り扱う家業に入り、厳しい経営環境だった同社の経営の立て直しに注力。2021年に（有）百花へと社名を変更し、2023年に代表取締役就任。創業当初から卸売業を主とし、現在は山梨県産品のパッケージデザインからコンサルティング、ブランディングまで幅広く手がけている。

山梨の魅力的な地場産品を全国へ届ける 持続可能な地域活性を担う次代の卸業者

パッケージデザインやブランディング、卸販売を一貫して手がけ、山梨県の地場産業を力強く支える（有）百花。包装資材の卸業に加え地場産品の卸売にも事業拡大し、歴史ある会社の経営を見事に立て直した3代目・佐野太一社長に、女優の宮地真緒さんがインタビューした。

父から受け継いだ老舗企業を立て直す

宮地 （有）百花さんは、佐野社長のお父様が創業されたそうですね。会社の歴史やこれまでの歩みを教えてください。

佐野 当社は箱や袋などの包装資材を扱う会社として1990年に父が創業しました。私自身は事業継承のことは意識せず、就職したアパレル業界での起業を考えていたんです。しかし、25歳の時に父が他界し、事業を引き継いだ母も高齢になるに連れて、「両親が残してくれた財産をしっかりと生かすべきだ」という思いが強くなり、30歳を迎えたタイミングで入社を決めました。ところが、いざ経営に携わるようになって決算書を見るとかなり厳しい状況で…。今後10年、20年

先を見据えるには改革が必要不可欠だと考え、立て直しに踏み切りました。

宮地 どういった立て直しをされたのか、ぜひ詳しくお聞かせください。

佐野 もともと、当社は箱・袋・リボン・ステッカーなどを一貫してデザインし、ワンパッケージでご提供できることを強みとしていました。ただ、パッケージ事業一本では市場が狭く、いずれ厳しい局面に立たされてしまう。そこで、パッケージ製作をする際に、どういった仕様でつくるのかや、商品の内容についてお取引先様と細やかに打ち合わせをしてきたサービスの過程に着目し、パッケージだけでなく当社で商品を仕入れて販売するという形に事業拡大をしたんです。

宮地 大きなご決断をされたんですね。



▲ 女性社員と一緒に

御社がこれまでお客さんと強固な信頼関係を構築されてきたからこそ、そのような事業拡大を実現できたのでしょうか。

佐野 そう言っていただけると嬉しいです。現在は、パッケージのデザインからコンサルティング、ブランディングまで含め、山梨県の地場産品に特化した卸売業に注力しております。また最近は、当社の仕入れや販路確保のノウハウを生かして、ふるさと納税関係の商品も多数取り扱っているんです。

地場産品の魅力を全国へ届ける

宮地 山梨県の地場産品と言えば、やはりすぐ思い付くのはフルーツですよね。

佐野 おっしゃる通りです。山梨県はフルーツ大国として知られており、当社でも高級な桃やぶどう（巨峰・シャインマスカット）などを中心に取り扱っています。また他にも、ワインやほうとう、煮貝、ジュエリーといった、多種多様な地場産品をご提供しているんですよ。

宮地 それだけ多様な商品を取り扱われるとなると、業務的なコストも大きくなりそうです。何か御社ならではの工夫をされているのでしょうか？

佐野 はい。まず、当社は先ほども申し上げた通り、パッケージデザインの段階からお取引先様と入念に打ち合わせを行います。そのため、パッケージが出来上がる頃には私たちもその商品やブランドのことを深く理解し、ファンとしてその

魅力を正しく発信できるようになっているんです。また、物流に関しても、桃やぶどうなどは当社を介さず農家様から直接発送をしていただくノウハウを確立しているため、多様かつ大量の商品を管理することが可能となっています。

宮地 パッケージから販売までお任せできるとなると、取引先としては本当に心強いと思います。

佐野 ありがとうございます。当社がそれらの業務を担うことで、取引先様が商品の製造に専念でき、結果として以前より大きなパワーを出すことの一助となっていれば幸いです。この仕事は取引先様との信頼関係が何より大切ですが、今お付き合いさせていただいている取引先様の多くは創業当初からご縁が継続しており、その点に関しては父が残してくれた35年の社歴というものの価値を日々感じています。会社の3代目として先代が残してくれた財産を守りながら、これからお付き合いをさせていただく取引先様とも同様の信頼を築きたいですね。

地域活性とSDGsの両立を目指して

宮地 お話をうかがっていて、佐野社長が誇りを持って今のお仕事に打ち込んでいらっしゃる様子が伝わってきます。

佐野 これだけ多岐にわたる商材を扱い、いろいろな方とお付き合いをさせていただける仕事は他にないですから、本当におもしろく、やりがいのある仕事だと思っています。取引先様の商品をお預かりし、その魅力を含めて誰かにお届けするというノウハウは、卸業を主とする当社ならではのものです。生産元や卸先ではできないことを、これからも当社が担っていきたいですね。

宮地 では最後に、会社としての将来のビジョンを力強く語ってください！

佐野 当社がふるさと納税で提供している「山梨の旬の果物定期便（桃とシャインマスカット）」は、2024年の定期便の人気お礼品ランキングで1位を獲得し、非常に多くのお客様からご利用いただいております。山梨県は日本一の桃とぶどうの生産地ですから、今後もこうした商品を通じて地域の農家さんと協力を深め、地場産業の活性化に努めてまいります。また、近年は地球温暖化や異常気象といった環境問題が顕著になってきており、山梨県の果樹栽培も大きな影響を受けているため、当社としてもカーボン・オフセットを推進し、山梨県の森林育成や保護に尽力するつもりです。地域活性とSDGsを両立させながら、当社と関わる方々を幸せにできるよう、これからも一歩ずつ成長し続けていきます。

Guest Comment>>

宮地 真緒（女優）

果物はジュエリーと同じように毎日買うものではない特別なものですね。そんな果物が素敵な箱で届いて作り手さんの思いや（有）百花さんが包んでくれた思いも重なれば、皆さんがハッピーになると思います。今後ますます地産地消は大事になってくると思いますし、フルーツ王国の山梨県からおいしいお礼品を全国に届けていってほしいですね。

